



MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

三重 T L O 技術情報クラブ会報

No.22 2013 年 8 月

CONTENTS

研究成果を社会に提供し、	研究室紹介	4
社会をデザインするための体制づくり 1	会員企業紹介	5, 6
みえライフイノベーション総合特区について 2	三重 T L O 技術移転および特許情報	7
行事案内 3	第 12 期 (2012 年度) 営業報告	8

研究成果を社会に提供し、社会をデザインするための体制づくり

三重大学理事・副学長（研究・情報担当）

社会連携研究センター長 吉岡 基



本年4月より、研究と情報
の双方を担当する理事・副学長ならびに社会連携研究センター長を拝命し、4ヶ月が経過しました。この間、歴代の担当理事・センター長が作り上げてきたこれまでの体制を理解しながら、三重大学の産学官連携体制の今後のあり方について、私なりに検討をはじめています。

三重大学の産学官連携活動の要となる社会連携研究センターは、「地域共同センター」（平成2年）を母体とし、「創造開発研究センター」（平成16年）を経て「社会連携研究センター」（平成21年）へと組織の拡充とともに名称変更され、現在に至っています。本年4月からは新たに地域圏防災・減災研究センターが構成組織のひとつに加わりました。研究機構としての本センターの現在の姿をまとめると、センター直下に、①社会連携研究室、②知的財産統括室、③新産業創成研究拠点、④研究展開支援拠点、⑤伊賀研究拠点の5組織があり、①の社会連携研究室（イノベーター養成室、尾鷲市三重大学連携室を含む）の下には、さらに四日市フロント、キャンパス・インキュベータ、地域戦略センター、地域圏防災・減災研究センターの4組織があります。こうしたさまざまな組織があることは、三重大学の社会連携・産学官連携機能の拡大と発展の現れであると考えられますが、その一方で、大小の組織が入り組み、学外の皆様からみると、その構造がややわかりにくくなっていることも否定できません。このことは、私が現在の任についてからしばしばおたずねを受ける点でも

あります。さらに、文部科学省の科学技術・学術政策局における「産学官連携の現状と今後の展開」の議論のなかでは、これからの産学官連携の方向性として、社会全体に潜在する課題と科学技術を組み合わせる、これまでにないシーズ・ニーズのマッチングの実現や、大学等が来るべき社会をデザインし、その実現とイノベーションの創出を図れる創造生産体制を構築することが必要との指摘もなされています。学内の教職員、学生の研究を支援し、かつ社会連携・産学官連携を推進する組織として、これまで拡大・機能強化の「攻め」の姿勢できた流れをわかりやすくするだけではなく、新たな流れにのせるために、産学官連携を含む研究機構を一度整理、見直す必要があるのではないかと考えています。

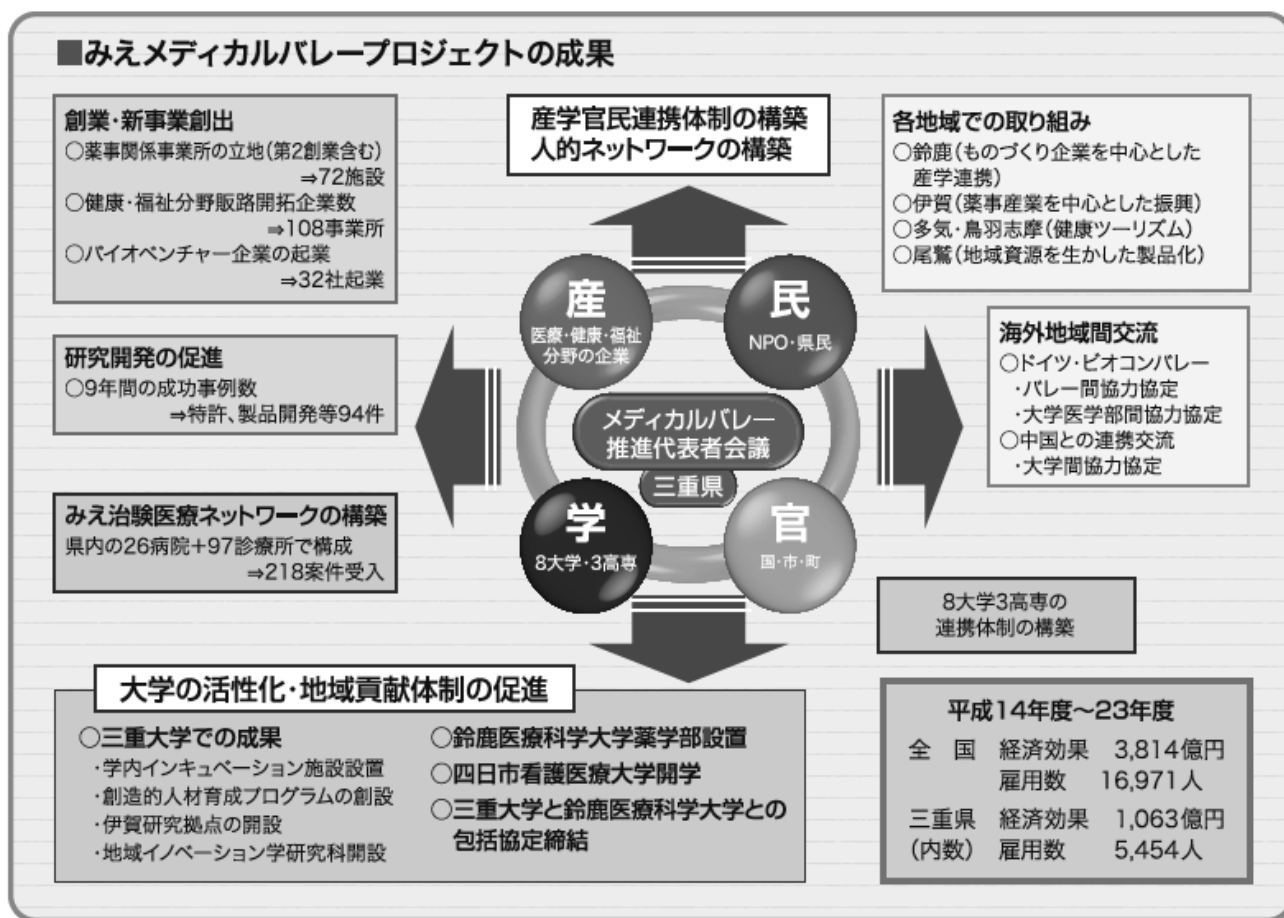
また、先日、三重TLOの株主総会に陪席させていただきました。最後の自由討論のなかで、三重大学にTLOができた頃には学内にも広くTLOの宣伝を行っていたが、最近の一部の本学教員には、TLOの存在やそこで何をしているのかが知られていないのではないかという御意見がありました。昨年度まで、研究科・学部の一教員であった私から周囲を見ても、そのように感じるところが確かにあるように思います。大学としても、この御意見を踏まえ、今まで以上に三重TLOの活動に協力し、広報活動も支援していきたいと思っています。

地域における大学の存在の意義が今まで以上に求められる時代になっています。研究成果・技術の社会への発信・還元の度合いは、その意義を問われる大きなポイントとなります。三重大学社会連携研究センターは、三重TLOとも一層良い形で連携し、三重大学の研究成果の発信・還元の拠点となっていければと思います。

みえライフイノベーション総合特区について

三重県健康福祉部ライフイノベーション課 課長 増田 直樹

平成 14 年 2 月に産学官民でみえメディカルバレー構想を策定し、同年 4 月から三重県健康福祉部ライフイノベーション課が事務局となり、メディカルバレープロジェクトとして事業を実施し、医療・健康・福祉産業の振興に取り組んできました。メディカルバレープロジェクトでは、産学官民の代表者で構成する推進会議の設置・運営、600 名以上の会員を有する研究会の運営、新薬の開発に不可欠である治験を受け入れる治験ネットワークの構築、ベンチャーの創出を促進する学内インキュベーターの開設、共同研究を促進するための企業への補助金や大学研究者の研究開発を支援する委託研究の実施などに取り組んできました。これまでの取り組みの結果下図のような成果がでています。



平成 24 年度からは構想の第 3 期実施計画として、ライフイノベーション*の推進に注力しています。

平成 24 年 7 月 25 日に国から指定を受けた地域活性化総合特区「みえライフイノベーション総合特区」では、これまでの産学官民連携体制の基盤や医療系ネットワークを活用し、患者の医療情報（健診、治療、投薬、検査等）を統合した「統合型医療情報データベース」（30 万人規模）を構築するとともに、研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」を県内 7 箇所に設置します。MieLIP は三重大学に設置する MieLIP センtralと地域の特性を生かした産業創出を支援する 6 つの MieLIP 地域拠点から構成します。

このデータベースや拠点の活用、規制緩和策などにより、県内外企業等による画期的な医薬品や医療機器等の創出、企業や研究機関の県内への立地促進、雇用の拡大などをはかり、県内企業・大学等の活性化や県内経済を活性化していきます。

また、総合特区の目標として、県内への企業等立地数や医薬品・医療機器の生産金額の増加等を掲げており、本特区の取組による経済効果は、5 年目の平成 28 年度に全国で 1,914 億円の経済効果と 9,051 人の雇用（うち三重県では、651 億円の経済効果と 2,419 人の雇用）を生み出す効果があると試算しています。

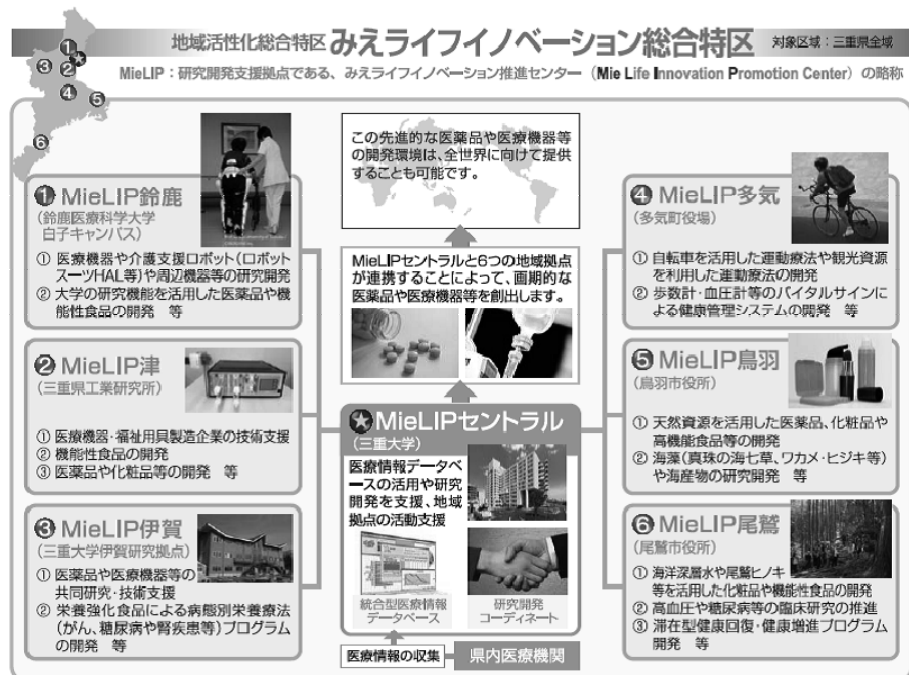
現在、県内産学官民が連携して本特区を進めているところですが、今後さらに本特区計画に多くの国内外企業や研究機関等の参画を促進し、三重県がライフイノベーションに寄与する地域になることをめざしていきます。

■お問い合わせ

三重県健康福祉部ライフィノベーション課

TEL 059-224-2331 / E-mail life@pref.mie.jp

「みえメディカルバレープロジェクト」HP／ <http://www.mvp.pref.mie.lg.jp/>



※ライフイノベーション

医療・健康・福祉分野で、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、革新的な医薬品・医療機器等の研究開発や製品開発を促進するもので、関連企業の活性化、企業立地の促進、雇用の拡大など、地域経済の活性化をめざす。

 行事のご案内

三重大学工学研究科と弊社では、地元企業の皆様の技術力向上と地元産業の基盤強化に寄与する事を目的とする「研究紹介と見学会」平成23年度より開催しております。今年度も関心のある分野（研究領域）ごとに、じっくり見たり聞いたり出来るように「研究紹介と見学会」を企画致しました。

是非ご参加頂き、三重大学工学研究科への理解を深めて頂ければと思います。

「研究紹介と見学会」終了後の交流会には、見学先研究室の研究者や教員も出席予定ですので、交流・面識の輪を広げる契機となることも期待しております。

皆様のご参加をお待ちしております。

- 見学先研究室の詳細や開催案内・参加申込書は、三重TLOのHPにてご確認下さい。

開催日：平成25年8月30日（金）

研究紹介と見学会 13:00～

交流会 18:00~

場所：三重大学講堂三翠ホール小ホール・工学研究科

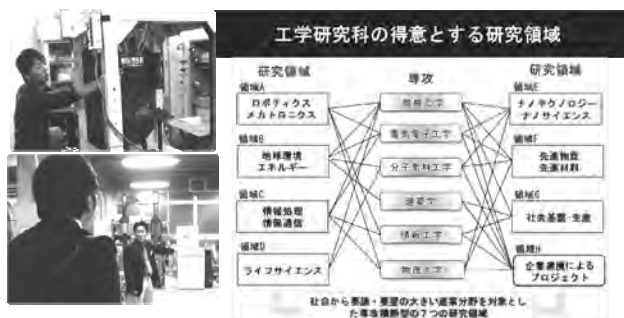
会費：研究紹介・見学会 とともに無料

(交流会参加費；三重TLO会員は無料、
会員以外の方は2,000円)

主催：三重大学大学院工学研究科

(株)三重ティーエルオー

共催：(株)百五銀行・(株)三重銀行・(株)第三銀行



◆ 会 員 企 業 紹 介 ◆

株式会社 三菱化学テクノリサーチ

〒510-8530 三重県四日市市東邦町 1
三菱化学(株) 四日市図書室
TEL 059-345-7099 FAX 059-345-7197
E-mail : jonokuchi.takashi@mn.mctr.co.jp
http://www.mctr.co.jp (担当: 城ノ口)

三菱化学テクノリサーチは、三菱ケミカルホールディングスグループの調査・コンサルティング会社として、35年に及ぶ豊富な実績を有しています。この間、特許調査をはじめ技術動向・市場動向はもとより、個別の調査案件、更にコンサルティングにいたる幅広いシンクタンク業務を展開しています。

経験豊富な情報のスペシャリストが、多種多様なデータソースから、お客様のニーズに合った情報を抽出・選択し、データベースの作成、調査・解析・提言の構築まで、幅広く提案させていただきます。サイエンス系シンクタンクとして、先鋭的かつ総合的な調査・分析から、事業戦略立案に必要なコンサルティングまでを確実に遂行します。各分野のビジネスの経験者ならではの、ノウハウを活かしたハイクオリティーなパフォーマンスをお約束します。

【 事 業 内 容 】

(1)調査・コンサルティング事業

技術や市場の情報・資料・データの収集、インタビュー、アンケート、海外調査を実施し、解析・研究や提言・コンサルティングなどを行います。

世界的なネットワークを有する海外調査会社とも提携しており、最新のグローバルな情報をお届けすることができます。

(2)情報提供事業

電子化された情報（特許情報、技術情報、ビジネス情報等）の入手から、データ処理、蓄積、データベース化、発信まで、さまざまな場面でお客様と情報の係わり合いをお手伝いします。またホームページの製作も承ります。

(3)刊行事業

化学及び周辺分野から時代のニーズに合ったテーマ、継続的に調査が必要なテーマを独自に選定してその解説をタイムリーに刊行しています。また、日本の主要化学関連会社を対象に経営戦略、技術戦略、製品戦略を定期的に報告、時代の注目技術について解析を行っています。

また、情報・電子、エネルギー、化学等の分野を中心に、最新の米国、欧州、中国、中東等に関する情報を収集し、毎月マンスリーレポートとして紹介しています。

(4)化学物質管理支援サービス事業

危険有害性調査、GHS分類、SDS (MSDS) 作成、GPS対応リスク評価等化学物質管理のお手伝いをします。

(5)翻訳（特に技術翻訳）事業

会社案内、製品パンフレット、通知類等、また英語以外にもニーズの高い中国語も対応します。

株式会社 エコ・トレード

〒510-0945 三重県四日市市高花平 1-1-62
TEL/FAX 059-322-3901
E-mail : et358@m7.cty-net.ne.jp
http://atom-aroma.com (担当: 西村)

全国のアウトドアショップなどで販売されているヤマヒル避けスプレー「ヒル下がりのジョニー」を製造販売する(株)エコ・トレードが、(公財)三重県産業支援センターが募集した「みえ地域コミュニティファンドものづくり部門助成金交付事業」を活用して、さわやかで清涼感のあるアロマの虫よけ「鉄腕アトムのアロマガードミスト」を新発売しました。アトムの7つの威力にちなみ、7種類の植物抽出天然油（レモンユーカリ油、シトロネラ油、ラベンダー油、ハッカ油、レモンガラス油、ヒバ油、ティーツリー油）と食品添加物、みえ尾鷲海洋深層水を配合しています。多くの虫が二酸化炭素のニオイを感知して近づいてくる習性があるので、アロマで感知させないという発想で研究開発。一般的な虫よけスプレーには、「虫避剤（ディート）」が含まれていますが、厚生労働省は生後6ヶ月未満の乳児への使用を禁止しています。また、12歳までの子供に使用する場合も使用制限を設けていますが、あまり知られていません。「鉄腕アトムのアロマガードミスト」は、ディ

ート、アルコール、パラベンは無使用で、ヒトパッチテストを実施して、皮膚刺激指数0.0の安全品との評価を受けました（(株)SOUKEN調べ）。抜群の認知度を誇る「鉄腕アトム」をキャラクターに採用したことにより、幅広い年齢層にアプローチでき、「強くて、優しくて、みんなのともだち！」という鉄腕アトムのイメージも、この商品にピッタリ！汗対策や気分転換にも使用できる優れもので、すでに佐川急便や日本郵便の集荷担当の方々も、この季節の苦情No.1である「汗臭さ」を緩和させるために使用しています。全国の東急ハンズ、アウトドアショップ、地元スーパー「一号館」、アマゾンなどで販売しています。育児中のお母さんやアウトドア活動をされる方々に大好評を得ています。50ml 840円（税込）現在、販売代理店募集中です。



本号より、会員企業の皆様の産産連携、産学連携がより促進されるよう、
会員企業紹介スペースを解放いたしました。是非ご活用ください。

株式会社プリンシプル

〒514-0821 三重県津市垂水字入江 137-2 (本社)
TEL 059-228-3228 FAX 059-253-8212
E-mail: nakanishi@prin-mie.co.jp
http://www.prin-mie.co.jp (担当: 中西)

株式会社プリンシプルは、平成18年3月に三重大学のキャンパス・インキュベータで誕生しました。現在、本社・津事業所と鈴鹿事業所の2か所で事業運営させて頂いています。

“挑戦し続ける「ものづくり企業」です。開発・製造から検査・品質管理まですべて一貫して行う「ものづくり企業」。多くの経験と実績で培ってきた「計測」「制御」「通信」といったコア技術を武器に様々な分野に貢献してきました。

主な事業は、4つあります。

- ①FA事業: 産業用自動化装置、検査装置、ウレタン、グリス専用塗布装置、自動化システム等の機械設計から電気設計、製造
- ②医療機器事業: 消毒・洗浄・滅菌をベースにした事業展開で、特に内視鏡洗浄消毒機とその周辺機器の開発から製造、各種医療機器関係の受託開発から製造。メンタルヘルス関係の機器(脳波計測器、自律神経計測器)の開発、販売
- ③受託開発事業: 各種電子機器の開発から商品化、計測機器等の開発から量産まで一貫した受託

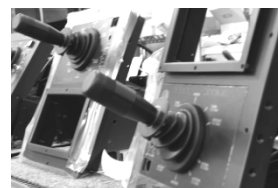
④環境・エネルギー事業: 有機EL照明パネルを用いた商品の開発から製造

以上の事業を津事業所は、医療機器事業、受託開発事業とし、鈴鹿事業所はFA事業、環境事業を中心に活動しています。

■第二種医療機器製造販売業 許可番号: 24B2X10007
■医療機器製造業(一般) 許可番号: 24BZ200014
■ISO9001

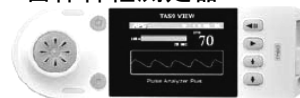
一 主な製品例 一

《FA 産業機器》



《脳波計測器 BES2000》

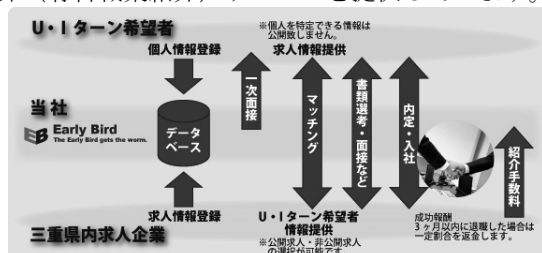
《自律神経測定器 TAS9》



株式会社アーリーバードエージェント

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学キャンパス・インキュベータ 218
TEL 0596-63-8864 FAX 0596-20-0171
E-mail: jinzai@ebird.co.jp
http://rs-mie.net/ (担当: 三田 佳奈子)

当社は、経営コンサルティング・教育研修を主力事業としているTLO会員企業、(株)アーリーバード(伊勢市)の関連会社です。三重大学との共同研究、三重TLOの支援のもとで、三重県内の元気な企業と30代を中心とした優秀で即戦力となるU・Iターン転職希望者との就職マッチングをコーディネートする人材紹介(有料職業紹介)サービスを提供しています。



他の大手人材紹介会社と異なる特徴は、地元三重の企業に密着し、同時に三重県出身者のUターン就職に力を入れているという点です。つまり、三重の企

業で貢献したいと考えている三重県内外に住む三重県出身の求職者にターゲットを絞って、企業の求人ニーズに合った人材を県内の企業だけに紹介しています。スローガンは、「東京から三重県出身者を取り戻そう」です。

三重大学との共同研究では、首都圏などで経験とノウハウを蓄積した三重県出身人材が、Uターン就職した県内企業でどのようなイノベーションを創出しているかを調査・分析し、いくつかの類型(成功パターン)を見出そうとしています。そのためにも、一人でも多くの三重県出身者が県内企業にUターン就職するお手伝いをしたいと考えています。その取組の一環として、地方へのU・Iターン転職を支援するリージョナルスタイルという全国組織に三重県担当として加盟していますので、首都圏など全国各地の企業で働く三重県出身者との接点があります。このようなネットワークを活かして、「即戦力となる三重県出身の優秀な人材」をご紹介できる体制を整えています。2012年4月に会社を設立して1年3ヶ月が過ぎましたが、これまでに20人を就職マッチングし、そのうち過半数の11名がUターンでした。立ち上げに苦労しましたが、少しずつ軌道に乗ってきた感があります。

当社は、今後も三重県へのU・Iターン就職支援を通じて、三重県全体の活性化に貢献します。

◆ 研究室紹介 ◆

三重大学大学院生物資源学研究所 栄養機能工学研究室

教授 梅川 逸人
准教授 西尾 昌洋

農林水産省の調査では、平成23年度に発生した食品産業から排出される食品廃棄物は約2千万トンで、発生の抑制はなかなか進んでいません。栄養機能工学研究室では、食品廃棄物や食品製造時の副産物の中から動物実験や培養細胞を用いて有効成分を見出し、生活習慣病の予防・改善や健康増進に役立てる研究を行っています。

醤油の一種であるたまり醤油は主に東海地方で生産されている醤油で、原料のほとんどが大豆から出来ており、一般のこいくち醤油に比べ未分解のペプチドを多く含んでいます。サンジルス醸造株式会社との共同研究では、たまり醤油製造時の副産物である搾り粕からACE阻害ペプチドを精製し、高血圧自然発症ラット（SHR）の血圧を低下させることを明らかにしました。さらに、たまり醤油粕から得られたフラジンという物質が、ヒト白血病細胞の増殖を阻害することを示しました。醤油粕は年間約10万トン発生しており、その有効利用の一助となると思われます。また、低品質海苔や加工工場からの屑海苔は年間約1万トン排出

され問題となっていますが、株式会社永谷園との共同研究では、GABAを生産する乳酸菌で低品質海苔を発酵させた海苔発酵エキスが、SHRの血圧を低下させることを見出しました。株式会社永谷園とはオルニチンを含味噌のエタノール代謝促進作用についても共同研究を行っています。

最近では、食品資源工学研究室的磯野先生との共同研究で、一過性高眼圧モデルラットに対して β -1,3-グルカンを硝子体内投与することにより、網膜神経節細胞のアポトーシスを抑制して神経を保護することを明らかにしました。さらに、三重県農業研究所とは緑茶成分の骨粗鬆症予防効果について研究を進めているところです。



三重大学大学院工学研究科電気電子工学専攻 オプトエレクトロニクス研究室

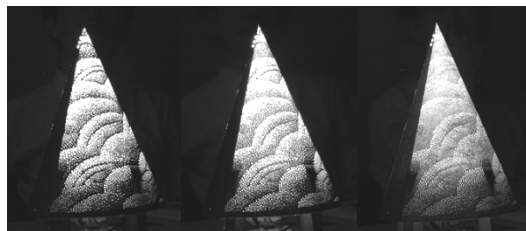
准教授 元垣内敦司
教授 平松 和政

オプトエレクトロニクス研究室では、光技術および半導体技術に関する研究を行っています。研究テーマは大きくわけて2つあります。1つは、「窒化物半導体の結晶成長と光デバイスへの応用」で、これは、平松が1980年代から名古屋大学および三重大学で携わってきたテーマで、三宅准教授と共に青色や紫外線LEDの材料となるⅢ族窒化物半導体の高品質結晶の作製、デバイスプロセス技術、光デバイス応用に関して、世界をリードする研究を行っています。

もう1つは「ナノ構造による光制御技術およびLED照明の新しい応用」で、元垣内が約10年前から開始したテーマです。ナノ構造による光制御技術に関しては、電子線描画装置を用いて、光学フィルム上への回折レンズ構造の作製とLEDの配光制御技術に関する研究や、金属ナノ構造を用いた偏光子、フィルタ、環境モニター用センサーの開発を行っています。

また、LED照明応用の研究に関しては、2006年にみえ研究交流サロン「感性系照明開発技術研究会」の活動を通して、伊勢形紙とLED照明を組み合わせた新しい商品開発支援を行い、写真のようなLED照明器具を試作しました。さらに自動販売機や植物工場など様々な共同研究を行っています。また、上述の回折レンズを用いて、光学特性に優れたLED照明の開発に関する研究も行っています。

また、今年から三重大学地域貢献活動支援事業にも採択され、「光技術による地域産業の活性化」というテーマで活動も行っています。今後も、学術的に新しいことを研究して、新しい技術シーズの確立を進めると共に発掘したシーズを技術移転し、光技術で地域貢献を果たすことができるよう研究活動に取り組んでいきたいと考えています。



三重 T L O の技術移転および特許情報 (No. 22)

1. 平成 2 4 年 4 月～2 5 年 3 月の特許出願状況

平成 2 4 年 4 月～2 5 年 3 月の期間に、三重大学より出願しました特許出願件数は下表のとおりです。

分 野	単独出願	共同出願	合 計
医薬品	1	1	2
医療関連	10	4	14
福祉	3	7	10
バイオ	0	1	1
食品	1	1	2
環境・エネルギー	0	1	1
材料	1	2	3
建築・土木	0	2	2
電気・機械	3	4	7
電子・デバイス	2	4	6
情報	1	2	3
総数	22	29	51

上表に示しますように H 2 4 年度の特許出願は大学単独（他大学等との共願を含む）の出願が 2 2 件、企業との共同出願が 2 9 件で、合計出願件数は 5 1 件と、昨年度より 2 件増えました。H 1 9 年度からの毎年の出願件数は 4 9 ～ 5 9 件の範囲で推移しております。H 2 4 年度の特徴は大学単独出願件数が増えたことです。例年の大学単独出願の割合は 3 0 % 以下ですが、H 2 4 年度は 4 3 % ありました。分野別の出願件数は医薬・医療関連の出願が最多で 2 6 件あり、全体の約半分でありました。次いで、電気・機械分野と電子デバイス分野の発明がそれぞれ 7 件と 6 件でありました。

2. 実施許諾可能な特許出願の概要

前記特許出願のうち、第三者への実施許諾可能な特許出願 8 件について、その概要を以下に紹介致します。

分類	知的財産の名称	発明の概要
医 療	異種細胞移植モデル動物の作製方法	免疫システムが未分化な時期のゼブラフィッシュに増殖能を消失させたヒトがん細胞を移植する。その後、前記ゼブラフィッシュに同系統の増殖能を消失させていないヒトがん細胞を移植することで、免疫抑制せずにヒト癌細胞を生着させ、生体内で増殖、遠隔転移させる。
	透明ゼブラフィッシュの作製方法、及び該ゼブラフィッシュを用いた生体イメージング評価法	ゼブラフィッシュの近交系変異体のうち、縞のない系統 (nacre) と鱗がない個体 (rose) を交配し、透明なゼブラフィッシュの系統を構築した。この透明系統を用い、ヒトがん移植を行い、化合物試験を行った所、通常のゼブラフィッシュより高い解像度の生体イメージングが得られた。
材 料	硬化性組成物およびそれを用いて硬化させた合成樹脂	(A) チタニウムアルコキシドと、(B) 2 座配位有機キレート化剤および (C) グアニジン化合物をそれぞれモル比にて 1 : 0.5 ～ 3 : 0.5 ～ 2 にて含む硬化組成物で、熱安定性が高く、かつ硬化特性に優れた硬化性組成物。
	半導体素子用エピタキシャル基板の作製方法、および A 1 N 単結晶自立基板	サファイア単結晶基材上に下地層と、A 1 N が形成され、下地層内部には断面形状が三角形の複数のボイドが所定間隔に形成された転位密度の小さい A 1 N 単結晶厚膜層を備えた半導体素子用のエピタキシャル基板。
電気・機械	定常衝突を可能にする衝撃機械	ハンマーでワークを鍛造・プレスする装置である。ワークはバネを介し、モータ駆動されるカムを介し作動するハンマーで殴打される。ハンマーがワークに衝突する時の、衝突周期、衝突位置、衝突速度を常に一定になるよう制御して、ワークの加工バラツキを抑える。
	振動子の位置と速度の制御法	衝突もしくは自由に振動する振動子の一周周期ごとの位置および速度を計測し、一周周期後には、該振動子の根元の位置を本発明が定める強制変位関数で変位させ、前記振動子の位置および速度を目的の値に制御する。
情 報	強磁性体を含む構造物や材料のある時点からの塑性変形量を評価する方法	予め着磁した強磁性体を含む構造物の残留磁化や、分布の変化から、着磁を施した時点以降の該構造物の塑性変形量を求め、該構造物の疲労の度合いを評価したり、該構造物内部にある時点で形成され、進展する亀裂を検出する。
	ダイレクトメソッドにもとづく外国語会話学習システム	発声機能と、行動機能と、表示機能を有する教師ロボットは、学習者が学習する外国言語のみを話し、外国語のみを聞き取ることしかできない。教師ロボットはまず、学習者に外国語を発声させるよう誘導する 1 のシナリオを実行し、次いで、学習者がこの誘導に呼応して外国語を発声する。この時、教師ロボットは学習者の発声を分析して次のシナリオを作成し、実行に移す。

以上に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株) 三重 T L O 技術移転部長 杉山早実 e-mail: sugiyama@za.ztv.ne.jp

Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9829

第12期（2012年度）営業報告（自2012年4月1日 至2013年3月31日）**I. 営業の概況**

当年度は、経常利益は283,859円となり、前期(2,047千円)に比べ大幅に落ち込みました。

また、税引き後の当期純損益は▲7,141円の損失となり、平成14年の創業以来、初めての赤字決算となりました。3.11大震災以降、国由来の受託事業が実質的にゼロになり、公共団体等由来の事業受託収入が大幅に減少したのが主な原因であります。一方、民間企業からの受託事業、技術指導収入は大幅に増加しました。

II. 2013年度事業運営と概略の収支計画について

《今年度（第13期）の概略収支計画》

最近に至り、アベノミクスの政策の一部効果を反映して景気上昇の機運が高まりつつありますが、会員企業の状況から判断しますと、現実の成長戦略の効果は、中堅中小企業にはまだ十分には及んでいません。引き続き新会員の加入件数の増加に取り組めますが、当方の活動量の一層の活発化が、必須と考えております。

このような情勢から、24年度実績に比較しまして今年25年度は、国委託の研究費等の有無で不明な点もありますが、それ以外の項目に関しては、概略は昨年度並みの予算（収入・支出 各50,000千円）で事業運営をすることと致します。また、産学官連携の活動量と質量ともに落とさず、昨年度に引き続き、経費削減努力をしつつ、営業損益の段階で黒字達成を目標として事業運営を行うことと致します。

また、共同研究などの立上げや奨学寄附金の獲得など、大学・研究者への研究資金の導入には、前年度を上回る規模にすることを指針と致します。

貸借対照表

(2013年3月31日現在 単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 流動資産	63,966,920	I. 流動負債	9,186,765
現金及び預金	54,016,775	未払費用	7,082,322
未収入金	9,718,145	未払法人税等	96,900
未収還付法人税等	82,000	未払消費税	77,900
仮払金	150,000	前受会費	1,340,000
II. 固定資産	535,302	預り金	589,643
(有形固定資産)	82,302		
工具器具備品	82,302	負債合計	9,186,765
(無形固定資産)	453,000		
ソフトウェア	387,000	資本の部	
電話加入権	66,000	I. 資本金	13,000,000
		II. 利益剰余金	42,315,457
		利益準備金	3,250,000
		その他利益剰余金	39,065,457
		別途積立金	17,000,000
		繰越利益剰余金	22,065,457
		純資産合計	55,315,457
資 産 合 計	64,502,222	負債・資本合計	64,502,222

損益計算書

(2012年4月1日～2013年3月31日 単位：円)

項 目	内 訳	金 額
(経常利益の部)		
I. 営業損益		
[営業収益]		
会費収入	11,500,000	
特許関連収入	3,919,712	
知財(特許以外)収入	1,237,058	
大学からの業務受託収入	7,869,528	
団体等からの事業受託収入	15,030,475	
技術指導料等収入	7,481,891	47,038,664
[営業費用]		
販売費及び一般管理費		
営業利益		46,783,011
II. 営業外損益		255,653
1 営業外収入		
雑収入	28,206	28,206
経常利益		283,859
税引前当期純利益		283,859
法人税・住民税等		291,000
当期純利益		▲7,141

(注) ▲印は、損失を表す。

三重TLOの現況（2013年7月1日現在）（TLOの承認：2002年4月16日 文部科学大臣、経済産業大臣）**1. 株式の状況**

(1)発行する株式総数 800株 (2)発行済株式総数 260株 (3)株主数 160名・団体

2. 従業員の状況

常勤管理者1名（代表取締役社長）、コーディネータ6名（週5日勤務・1名、週4日勤務・1名、週3日勤務・1名、週2日勤務・1名、週1日勤務・2名） 事務補助者3名（パートタイマー）

3. 取締役および監査役

取締役会長 森野 捷輔（三重大学元理事・副学長）

代表取締役 圓城寺英夫（三重大学客員教授）

取締役 吉岡 基（三重大学理事・副学長）

取締役 菅原 庸（三重大学名誉教授）

取締役 村上一仁（住友電装㈱元取締役）

取締役 國枝勝利（三重TLO 事業推進部長）

取締役 松井 純（三重大学社会連携研究センター研究員）

監査役 相可友規（㈱三重銀行元取締役）

監査役 西野雅仁（㈱百五銀行 営業渉外部地域貢献課長）

㈱三重ティーエルオー

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577番地
三重大学内

TEL：059-231-9822 Fax：059-231-9829

E-mail：mie-tlo@zvtv.ne.jp